

登山月報

平成22年度第2回理事会・臨時総会…1
ホームページ ……5
新連載 Mountain World 第29回 ……6
韓国クライマー達のこれから ……7
JMA ……9
寄贈図書 ……9
編集後記 ……12

平成23年度事業計画・収支予算を承認 平成22年度第2回理事会・臨時総会

平成22年度第2回理事会議事録

1 日時

平成23年3月27日(日) 午前10時30分～13時10分

2 場所

岸記念体育会館102～103号会議室
東京都渋谷区神南1-1-1

3 会議の成立状況(定款第26条)

定数32名(定足数22名)、出席者24名、委任8名、計32名

4 出席者

田中文男会長(埼玉)、内藤順造副会長兼専務理事(特別)、栗飯原一成(京都)、神崎忠男副会長(特別)、本木總子副会長(東京)、仙石富英(栃木)、高山雅夫(千葉)、堀井昌子(神奈川)、遠藤家之進正和(新潟)、牧野治生(福井)、安藤武典(愛知)、堀井啓介(岐阜)、山並久次(大阪)、遠山誠之介(和歌山)、木村康男(香川)、工藤文昭(熊本)、野田孝(鹿児島)、尾形好雄(特別)、北山真(特別)、相良忠麿(特別)、谷口浩平(特別)、寺内文行(特別)、永井豊(特別)、長谷川茂(特別)各理事 以上24名
(委任者)小野倫夫(北海道)、小島亮治(宮城)、清野孝(山形)、西内博(茨城)、佐藤光由(群馬)、亀尾崇(鳥取)、天津邦之(鳥根)、青木茂(特別)以上8名

(同席者) 福田昇、岡本忠良両監事

5 田中会長挨拶

東北関東大地震の影響で本理事会を本日に延期させていただきました。当該地域では大変な状況下にあります。次年度の事業計画及び予算を確定しなければなりませんので、年度末ぎりぎりのお忙しい中ではありますが、理事会を開催させていただきます。

す。多くの審議事項を限られた時間の中ではありますが、十分に審議をして頂き、総会に臨みたいと思います、と挨拶。

6 議事役員の選出

定款第25条の規定により田中会長を議長に選出

7 議事録署名人の選出

定款第30条の規定により工藤文昭(熊本)理事及び堀井昌子(神奈川)常務理事を指名

8 議事

(1)第1号議案 平成22年度事業経過報告について

尾形事務局長から資料を事前配布しているので、詳細説明は割愛し、各担当常務理事から補足説明の後、質疑を受けたいと報告。

◎第1号議案、提案通り承認。

(2)第2号議案 平成22年度会計経過報告について

相良常務理事より議案書に基づき、2月28日までの収支報告、一般会計、特別会計の明細説明が報告された。

また、内藤専務理事より創立50周年記念事業の収支残額について先の評議員会では200万円を国民スポーツ登山振興基金特別会計に繰り入れることで了承を得たが、この繰入金を100万として残り100万円はこの度の東北関東大地震の義援募金としたい旨、提案され、併せて承認が諮られた。

◎第2号議案、提案通り承認。

(3)第3号議案 平成23年度事業計画(案)について

内藤専務理事から平成23年度の事業計画原案とそれに伴う予算編成方針について説明があり、続いて尾形事務局長から資料を事前配布しているので、詳細説明は割愛し、各専門委員会の担当常務理事から補足説明の後、質疑を受けたいと報告。

◎第3号議案、提案通り承認。

平成22年度臨時総会議事録

(4)第4号議案 平成23年度収支予算(案)について

相良常務理事より11月の臨時理事会で承認いただいた平成23年度予算編成方針案に基づき、収支均等を原則とした収支予算及び長野県山岳協会創立50周年記念募金特別会計について説明。

◎第4号議案、提案通り承認。

(5)第5号議案 平成22年度共済会事業経過報告について

(6)第6号議案 平成23年度共済会事業計画(案)について

(7)第7号議案 日本山岳協会共済会内規の改廃について

尾形事務局長より第5号、第6号、第7号議案とも関連議案なので、一括説明した後、承認を諮りたい、と提案され、了承された。

尾形事務局長より議案書に基づいて説明。第7号議案の山岳共済会内規の改廃については、平成19年度から現行の共済会制度に移行されながら、内規の整備がされていなかったため、現行に即した内規にしたい、と説明。

◎第5号議案、第6号議案、第7号議案とも提案通り承認。

(8)第8号議案 会長・副会長候補者の推薦について

内藤専務理事より議案書に基づいて次期会長・副会長候補者の推薦について諮られた。

◎第8号議案、提案通り承認。

9. 報告

1) 監事候補者の推薦について

尾形事務局長より次期監事候補者として評議員会で現監事2名が推薦された、と報告

2) 公益社団法人化移行の進捗について

内藤専務理事から資料に基づき移行の進捗について報告。出きれば23年度通常総会で定款及び定款施行細則の審議を諮りたいので、定款内容をよく検討して頂きたい、とお願いされた。

3) 創立50周年記念事業報告について

尾形事務局長より資料に基づいて報告。

4) 第50回以降の全日本登山体育大会について

尾形事務局長より第52回大会までの主管岳連について報告。

5) 第65回国体における山口県選手の参加資格違反について

高山常務理事より一連の顛末と国体参加資格に関する第三者委員会の答申及び日体協からの注意処分について報告。

6) 「山の切手」発行について

田中会長より協力のお願いがあった。

10. 閉 会

1 日 時

平成23年3月27日(日) 13時40分～15時10分

2 場 所

岸記念体育会館102～103号会議室

東京都渋谷区神南1-1-1

3 会議の成立状況(定款第26条)

定数57名(定足数38名)、出席者36名、委任18名計54名

4 出席者

田中文男会長(埼玉)、内藤順造副会長兼専務理事(特別)、粟飯原一成副会長(京都)、神崎忠男副会長(特別)、本木總子副会長(東京)、仙石富英(栃木)、高山雅夫(千葉)、堀井昌子(神奈川)、遠藤家之進正和(新潟)、三尾敦(長野・代理)、松本睦男(富山)、牧野治生(福井)、滝田博之(静岡)、安藤武典(愛知)、亀井正明(三重)、堀井啓介(岐阜)、伊藤克己(滋賀)、山並久次(大阪)、遠山誠之介(和歌山)、京才昭(広島)、蓬郷隆治(岡山)、古林善明(山口・代理)、木村康男(香川)、白石崇(愛媛)、足達敏則(福岡)、工藤文昭(熊本)、後藤利雄(大分)、多賀進司(宮崎)、野田孝(鹿児島)、尾形好雄(特別)、北山真(特別)、相良忠麿(特別)、谷口浩平(特別)、寺内丈行(特別)、永井豊(特別)、長谷川茂(特別) 以上36名(委任者) 小野倫夫(北海道)、下山壽(青森)、高橋時夫(岩手)、小島亮治(宮城)、佐々木義宗(秋田)、清野孝(山形)、尾形一幸(福島)、西内博(茨城)、佐藤光由(群馬)、吉村忠明(奈良)、亀尾崇(鳥取)、天津邦之(島根)、田福正治(徳島)、市村藤一(高知)、多田修(佐賀)、溝上春見(長崎)、田場典淳(沖縄)、青木茂(特別) 以上18名(同席者) 福田昇、岡本忠良両監事

5 田中会長挨拶

総会に先立ち、この度の東北関東大地震で犠牲になられた方々に心から哀悼の意を表し、黙祷を捧げたい。

今年度の創立50周年記念事業については、ご支援・ご協力を賜り、厚く感謝を申し上げる。全ての記念事業が無事終了し、安堵している。また、5期10年にわたる会長在任中のご協力に対して感謝を申し上げたい。

大地震によりこの臨時総会も延期となり、年度末ぎりぎりの開催となったが、重要な議案があるので、十分に審議して頂きたい、と挨拶。

6 議事役員の選出

定款第25条の規定により田中会長を議長に選出

7 議事録署名人の選出

定款第30条の規定により安藤武典（愛知）及び足達敏則（福岡）正会員を指名

8 議 事

(1)第1号議案 平成22年度事業経過報告について

尾形事務局長から資料を事前配布しているので、詳細説明は割愛し、補足説明の後、質疑を受けたいと報告。

◎第1号議案、提案通り承認。

(2)第2号議案 平成22年度会計経過報告について

相良常務理事より議案書に基づき、2月28日までの収支報告、一般会計、特別会計の補足説明が報告された。

また、議長から午前中に開催された第2回理事会で、創立50周年記念事業の収支残額について国民スポーツ登山振興基金特別会計の繰入金を100万とし、残りの100万はこの度の東北関東大地震の義援募金とすることが、承認されたので、これについても併せて承認が諮られた。

◎第2号議案、提案通り承認。

(3)第3号議案 平成23年度事業計画（案）について

尾形事務局長から資料を事前配布しているので、

詳細説明は割愛し、各専門委員会の担当常務理事から補足説明の後、質疑を受けたいと報告。

*後藤（大分）：遭難事故の調査研究に「ロープ結束の強度試験」とあるが、23年度はどのような実験を予定しているのか。また、スリングの強度試験などもできるのか。

*永井：22年度は懸垂下降時のロープ結束の強度試験を行ったが、今後はスリングやディジーチェーンなどの強度試験も行いたい。ロープ結束ではプルーシックやマッシャーなどのフリクション・ノットについても実験を行いたい。

◎第3号議案、提案通り承認。

(4)第4号議案 平成23年度収支予算（案）について

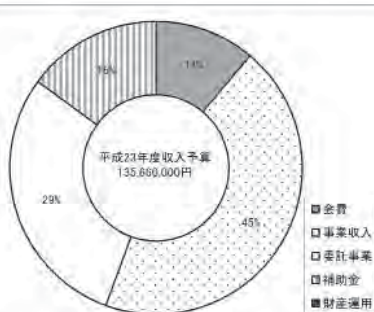
相良常務理事より収支均等を原則とした収支予算、一般会計の補足及び長野県山岳協会創立50周年記念募金特別会計について説明。

*松本（富山）：青少年育成事業の「みんな集まれ！ジュニア登山教室in立山」の23年度予算が120万円となっているが、募集人員は30名なのか。JOCジュニアオリンピックカップはスポーツ拠点づくり推進事業として開催してきたが、政府の事業仕分けで見直しとされた。その後の動きはどうなっているか。選手登録について現在の登録者数は、何名か。

22年度23年度予算対比グラフ

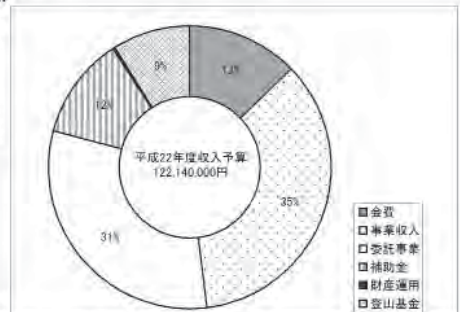
平成23年度収入予算

	(千円)
会費	15,020
事業収入	60,350
委託事業	40,000
補助金	20,180
財産運用	110



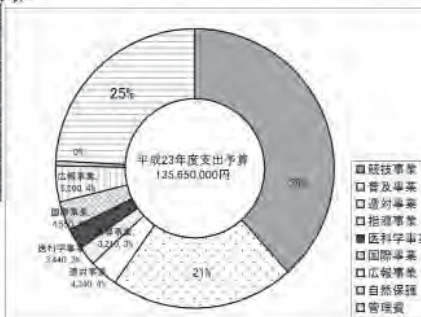
平成22年度収入予算

	(千円)
会費	15,570
事業収入	42,910
委託事業	38,000
補助金	14,450
財産運用	110
登山基金	11,000



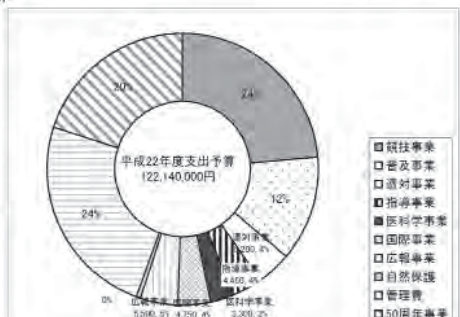
平成23年度支出予算

	(千円)
競技事業	52,040
普及事業	29,070
道対事業	4,340
指導事業	3,210
医科学事業	3,440
国際事業	4,550
広報事業	5,500
自然保護	600
管理費	32,900



平成22年度支出予算

	(千円)
競技事業	28,900
普及事業	15,070
道対事業	5,200
指導事業	4,450
医科学事業	3,300
国際事業	4,750
広報事業	5,500
自然保護	600
管理費	29,950
50周年事業	24,410



- *本木：ジュニア登山教室の募集人員は、30名。
- *尾形：スポーツ拠点づくり推進事業の件については、当該22競技団体の嘆願書を11月11日に民主党スポーツ議員連盟の谷亮子会長に手渡したが、その後の回答は未だない。
- *中川(事務局員)：現在の選手登録者数は、約780名。

◎第4号議案、提案通り承認。

(5)第5号議案 平成22年度共済会事業経過報告について

尾形事務局長より議案書に基づいて説明の後、質疑を受けたいと報告。

◎第5号議案、提案通り承認。

(6)第6号議案 平成23年度共済会事業計画(案)について

尾形事務局長より議案書に基づいて説明の後、質疑を受けたいと報告。

◎第6号議案、提案通り承認。

9 報告

(1)会長・副会長・監事候補者の推薦について

尾形事務局長より資料に基づき次期会長・副会長・監事候補者について評議員会、理事会で承認されたことを報告。人事案件については、5月の通常総会で諮っているのので、この臨時総会には諮らない、と説明。

(2)公益社団法人移行の進捗について

尾形事務局長より内閣府公益認定等委員会の指導を仰ぎながら、できれば23年度通常総会に定款及び定款施行細則の審議を諮りたいと報告。

(3)創立50周年記念事業報告について

尾形事務局長より資料に基づいて報告。

(4)第50回全日本登山体育大会について

足達正会員(福岡)より50回大会の大会概要を説明。

滝田正会員(静岡)より49回静岡大会の御礼を述べられた。

(5)第65回国体における山口県選手の参加資格違反について

高山常務理事より一連の国体参加資格に関する第三者委員会の答申及び日体協からの注意処分について報告。

続いて、古林正会員代理(山口)より顛末報告と日山協への謝罪があった。

(6)日本山岳協会山岳共済会内規の改廃について

尾形事務局長より、平成19年度から現行の共済会制度に移行されながら、内規の整備がされていなかったのので、現行に即した内規に変更したと報告。

(7)長野県山岳協会創立50周年記念事業について

三尾正会員代理(長野)より50周年記念事業への協力をお願いと長野県山岳連盟の関わりについて報告があった。

(8)東北地方太平洋沖及び長野県北部大地震の義援募金のお願いについて

別紙の通り、義援募金の協力願いがあった。

(9)「山の切手」発行について

田中会長より協力依頼があった。

10 閉 会

平成23年度主な事業計画

1. 会議・他

- ・総会 5 / 15(日)、3 / 11(日)
- ・理事会 5 / 15(日)、11 / 13(日)、3 / 11(日)
- ・評議員会 2 / 19(日)
- ・全国参与会 10 / 28(金)
- ・新春懇談会 1 / 14(土)

2. 専門委員会総会

- ・競技委員会 4 / 24(日)、東京
- ・指導委員会 6 / 11(土)~12(日)、東京
- ・国際委員会 6 / 18(土)~19(日)、山梨
- ・遭難対策委員会 6 / 25(土)~26(日)、奈良
- ・自然保護委員会 10 / 15(土)~16(日)、鳥取

3. 青少年育成事業

- ・第54回全国高等学校登山体育大会 8 / 9(火)~13(土)、青森・八甲田山系
- ・第2回全国高校生クライミング選手権大会 12 / 24(土)~25(日)、埼玉・加須市
- ・みんな集まれ!ジュニア登山教室in立山 8 / 10(水)~13(土)

4. 安全登山啓発事業

- ・中高年安全登山指導者講習会(東部地区) 9 / 16(金)~18(日)、秋田・鳥海山系
- ・中高年安全登山指導者講習会(西部地区) 10 / 21(金)~23(日)、兵庫・六甲山系

- ・山岳レスキュー講習会(東部地区) 9 / 23(金)~25(日)、富山・国立登山研修所
- ・山岳レスキュー講習会(西部地区) 1 / 27(金)~29(日)、群馬・土合山の家
- ・平成23年度全国山岳遭難対策協議会 7 / 7(木)、東京
- ・第50回全日本登山体育大会 10 / 28(金)~30(日)、福岡・英彦山

5. 競技会運営事業

- ・第25回リード・ジャパンカップ 6 / 4(土)~5(日)、山口
- ・第14回JOCジュニアオリンピックカップ 8 / 14(日)~16(火)、富山
- ・ルートセッター全国研修会 8 / 9(火)~11(木)、富山
- ・第66回国体山岳競技大会 10 / 2(日)~4(火)、山口

6. 競技力向上事業

- ・世界選手権大会 7 / 15(金)~24(日)、イタリア・アルコ
- ・パラクライミング世界選手権大会 7 / 18(日)~19(火)、イタリア・アルコ
- ・アジアユース選手権大会 7 / 28(木)~30(土)、シンガポール
- ・世界ユース選手権大会 8 / 25(木)~28(日)、オーストリア・イムスト
- ・アジア選手権大会 11 / 11(金)~13(日) 香港

45万アクセスを突破した公式ホームページ

広報委員会

日本山岳協会のホームページ(以下サイト)がフェーズⅡで本格稼働してから1年を経過します。この稼働以来アクセス数が13万7千件余と急激な伸びを示しました。

サイトの刷新化につきましては2009年以来、段階的に実施してきて、加盟団体のみならず一般に向けてより多く閲覧をしていただくことができるよう心がけてまいりました。

.....:在来までの移行経緯:.....

2009-04-01 フェーズⅠ運用開始
新ドメインjma-sangaku.orgを立ち上げ
2010-02-02 フェーズⅡ移行開始
CMSを採用し、本格サイトの立ち上げ
2010-11-01 フェーズⅢ移行開始
行事・ドキュメントの自動入力など改良

日本山岳協会のサイトは2002年11月にjma-sangaku.or.jpが最初に立ち上げられ、7年間運用されてきました。2008年から仮運用してきた山岳共済会専用サイトを併合して、2009年に新しいサイトにてjma.orgを立ち上げました。新しいサイトのフェーズⅡの立ち上げに当たってはtotoの助成を得て、サイトの仕組みの抜本的な改良を行い、本格稼働へ結びました。

新しいサイトでは、登山、競技、山岳共済の3つのエリアと、それらをまとめる総合的なページの構成としており、日本山岳協会の情報を分野ごとに迅速・的確に伝える広報手段といたしております。

2002年の開設以来、サイトのアクセス数は2011年4月現在で延べ476,635件を数え、現在では一日平均で約300件(最大時には3,600件)のアクセスを受けております。一月にしますと約10,000件近いアクセスを受けておりますことから、広報手段として十

分な定着ができているものと考えております。この新しいサイトでは掲載の即時性を図るため、次の通りの自動化機能を採用しております。

- 1)CMSを採用した自動配置化
 - ・トップページの画像の自在入れ替え
 - ・ニュース・トピックス・重要なお知らせ
 - ・バナー設定
 - ・見出し設定の簡易化
- 2)エクセルマクロとCGI連携で自動入力化
 - ・行事日程
 - ・ドキュメント(発行書類の書庫)
- 3)Google Analyticsを採用したアクセス解析の即時化

新しいサイトはグーグル社が提供する解析システムGoogle Analyticsを採用してアクセス管理を行っております。下表はこの解析データを引用しています。表の内容についてフェーズⅡの本格稼働前後でのアクセス状況(改善効果)を要約しますと次の通りとなります。

- 1)セッション数:2倍増
- 2)ページビュー:8倍増
- 3)直帰率改善:3.4倍
- 4)滞在時間の長期化:3倍増

最後に、現在フェーズⅣの改良を計画中です。フェーズⅣでは更にビジュアルな情報を提供しようと動画ページ機能の追加を推進中で、一層利用し易さに心がけて参ります。

語句の説明-----

セッション:ホームページを見に来た件数
ページビュー:ホームページ内で見たページ数
直帰率:中身の詳細ページを見ないで離脱する率
滞在時間:ホームページを離脱するまでの時間
CMS: ページを自動生成する仕組み

	期間	日数	セッション(件)				ページビュー(頁)				平均直帰率(%)	平均滞在時間(時:分:秒)
			総数	日平均	日最大	日最小	総数	日平均	日最大	日最小		
PhaseⅠ	2009-05-17 ～ 2010-01-31	259	41,749	161.2	401	63	72,080	278	2,081	85	70.26	00:01:32
PhaseⅡ	2010-02-01 ～ 2010-10-31	273	89,026	326.1	1,255	138	564,603	2,068	6,801	935	20.46	00:03:39
PhaseⅢ	2010-11-01 ～ 2011-04-01	150	48,322	322.1	3,620	170	260,108	1,734	6,823	871	33.51	00:03:22

第29回 Mountain World

スーパー・インテグラル再び

池田常道

インテグラル（全体、総体）という言葉が登山で使われる場合は、あるルートの末端から山頂まで、その全長をたどることを意味する。たとえば槍ヶ岳の北鎌尾根なら北鎌のコルから取付くのではなく、千天出合からスタートしてP1、P2と下部岩稜を忠実にたどることを指す。アルプスのモン・ブランにもこの名を冠するルートがある。プトレイ山稜をクラシックなラインでたどるのではなく、エギーユ・ノワールの南稜から取付いて山頂まで継続するものだ。

ルネ・デメゾンが1972年8月に3日間で単独初登攀してみたことで知られ、1973年12月22日から26日には、ヤニック・セニユール、ルイ・オドゥベール、ミシェル・フィヤラル、マルク・ギャリのフランス勢とイタリアのスキノベル兄弟（アルトゥーロとオレステ）が冬季初登攀して話題になった。オドゥベールは当時、「氷のコンディションがよく、夏よりやさしいくらいだった」とコメントしているが、わずか5日間で冬のモン・ブランを越えたそのスピードは、さすがにアルプス冬季登攀の前線で活躍していたメンバーだけのことはある、と評された。合計登攀標高差4500mにも及ぶ大登攀だった。

*

この課題にさらなる価値を付け加えたのがイタリアのレナート・カーザロットだった。1982年2月1日から15日、エギーユ・ノワール西壁から始めてグリエルミーナ南西壁、フレネイ中央岩稜へと継続し、イノミナータ山稜を経てモン・ブランを越える大山行を単独で敢行したのである。ノワール西壁のラッティ＝ヴィターリ・ルート（冬季単独初登攀）に3日、グリエルミーナ南西壁のジェルヴァズッティ＝ボカラッテ・ルート（冬季単独初登攀）におなじく3日、エギーユ・ブランシュを越えてフレネイ・フェース取付きに至り、中央岩稜（冬季単独第2登）に2日をかけ、14日モン・ブランに登頂、山頂でビバークしてからシャモニに下った。ちなみに、フレネイ中央岩稜の冬季単独初登は1980年の鴨満

則によって行われていた。

カーザロットが、いみじくも「スーパー・インテグラル」と称したこの登攀は、モン・ブランのイタリア側でもっとも困難と目されるルートをつなぐ当時理想の継続登攀であった。

その後、パタゴニアのフィッツロイ北稜やカラコルムのブロード・ピーク北峰など単独登攀の足跡を刻んだカーザロットだが、1986年のK2でクレバス事故のため亡くなった。当時未踏のK2南南西稜に単独で挑み、最後の頂上攻撃にそなえて休養をとるべくベースキャンプへ降りる途中で氷河の罠に落ちたのだった。ちなみにこの年は13人の遭難者を記録し、K2の「ブラックサマー」として記憶されるシーズンであった。

*

カーザロットの遺作となった「スーパー・インテグラル」はなぜか、その後20年以上も登られることがなかった。

2003年の2月、ステファヌ・ブノワ、パトリス・グレロン＝ラパ、パトリック・ペシのフランス・トリオがこれに挑み、ノワールとグリエルミーナを終えてプトレイのコルに達した。しかし、ここで悪天候に見舞われた3人はエックルのビバーク小屋に退避。そこで出会ったのが、ブルイヤールとフレネイの両フェースで継続登攀に挑戦していたパトリック・ベルオーとフィリップ・マニンだった。彼らはフレネイ・フェースのルートに関して、右ピラーと中央岩稜にはさまれたクーロワールをたどるフレネイ・パスカルを推奨、それにしがったトリオは出発後10日目にモン・ブラン山頂に立ち、スーパー・インテグラルの第2登を果たした。

そしてこの2月、アイメリチ・クルーエ、ジェローム・パラ、ピエール・ラブルの、これもフランスのトリオが、カーザロットの成功から29年目に新ルートをふくむ第3登に成功した。ノワール西壁からグリエルミーナ南西壁を越えたトリオは、フレネイ・フェースでは新ルートに挑んだ。ヒドゥン・ピラーと中央岩稜の間にある急峻なコーナー・システムを初めて登ったのである。ここは、中央岩稜上部から敗退するパーティによって懸垂下降のアンカーが設置されているが、部分的にハングしており、これまで冬に登られたことはなかった。3人がモン・ブランを越えてレ・ズーシュに下りたのは、登り始めてから6日後のことだった。

極東の双翼、韓国クライマー達のこれから——

谷口けい

1月14～16日、韓国の雪岳山（ソラクサン）国立公園で第一回韓国ウィンタークライマーズミーティング（冬季登山家ワークショップ）が開催された。

このイベントが開催されるまでの経緯は、私達と切っても切れない関係がある。昨年のウィンタークライマーズミーティング(WCM / 関東甲信越周辺の有志でやっているアルパインクライマーの集い)に、韓国クライマーを招待した。これは、WCMの目的が普段一緒に登る機会の無い人とロープを組み、情報交換を行い、今後の自分たちのクライミングに広がり発展を持たせようというものでもあり、それがインターナショナルな関わりとなっていくたらという思いから、パキスタン遠征中に共に時を過ごした韓国隊のメンバーを招いたのだ。残念ながら昨年のWCM期間中は荒天のために、ほとんどクライミングが出来なかったが、代わりに語り合う時間が沢山あった。ヨーロッパでの体験をふまえて、私が強く言っていたのが「自分たちのやっていることを、もっと世界に発信すべきだよ。そうすれば、欧米のクライマー達が極東と思っている日本や韓国のクライミング事情にもっと興味を持ってくれて、私達の世界とのつながりももっと広がるはず」

この日本でのミーティングに影響を受けた彼らが、一年を経て、第一回韓国ミーティングの開催へ



日本からの参加メンバーと韓国隊の仲間



トワンソンでの登攀風景

と漕ぎつけた。

韓国におけるアルピニズムの未来に焦点を当て、登山の本来の意味、方法と理念について討論しようというテーマのもとに、なんと100人もの参加者が集まった。

この集まりは、日本の私達が30人ほどの有志でやっているものとは性格がだいぶ違ったが、現在の韓国のクライミング事情を象徴した集まりだったと言えるかもしれない。

1日目は自由に登攀を楽しんだり、各地からの移動で夕方集合、夜に開会記念講演。

2日目の昼間はトワンソン氷瀑などでの登攀をし、2日目の夜と3日目の午前中は、遠征などのプレゼンテーション及びアルパインクライミングにおける質疑応答と意見交換の時間が設けられていた。日本から天野と谷口も招待され、韓国クライマー4名とともに報告することになっていた。この時間はとても有意義で、韓国のクライマー達がアルパインクライミングについて真剣に考え、分析、検討して

いる様子がうかがえ、報告者の一人はヒマラヤでの自分の事故からの生還体験をふまえて、「何よりも大切なのは、登頂の成功ではなく、生きて無傷で帰ってくること」「登山は自由な意思で行う行為であるけれど、決して人に迷惑をかけないこと」と語る言葉、そしてそれを聞いてうなずいている聴衆の姿に、なんだか自分と彼らの距離がぐっと近づくのを感じたのだった。

しかしその一方で、約束の時間までに下山せず、登り続けていたパーティが事故を起こすという現実もあった。これは、登攀の成功と完結への揺るぎない闘志を持った韓国クライマーの性格を象徴している姿でもあるな、と思わざるを得なかった。

このイベントには、韓国各山岳雑誌の編集者たちも来ていたので、彼らがこのミーティングに対してどう考えているのか、そして起きてしまった死亡事故という現状に対してどう受け止めるのか、とても興味がある。

現地では事故発生直後に、事故の原因と責任問題についてインタビュー（というかしつこく質問攻め）をした。基本的に責任問題に関する答えは皆「登山（登攀）は自由なのだから、責任は各自でしょ」。

確かにその通りなのだが、今回はイベントの最中に起きた事故、皆でやろうよって集まったイベントでの事故は、主催者に責任問題が降りかかってくるものだ。もしくは、ここに集まった全員が、ミーティング参加者という一つのチームという意識を持つべきなのだから、責任はここにいる全員にあるってことになるんじゃないの？と私は思う。それが、仲間とともに登るといふことだ。この事故が発生した時、すぐ隣で別のパーティがいたにもかかわらず、彼らはレスキューせずに（出来ずに？）その場を去ったとのこと。

今回の訪韓で共に登り、飲み、語り、改めて韓国クライマーの精神力の強さと純粋な姿勢に感動すると共に、彼らが今後検討すべき登山の意味やスタイル、安全面に対する課題について考えさせられた。

◎昨年の日山協の協力を得て韓国隊WCM招待が、今回の交流へとつながった。今後もこのような国際交流が広がって行けたらと思うので、ご協力よろしくお祈りします。

東北地方太平洋沖地震の被災者の皆さまへ

この度の東北地方太平洋沖地震により亡くなられた方々に対しまして、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災者の皆様には心からお見舞い申し上げます。

被災地におかれましては、今なお安否や消息が確認されていない方々も多数おられ、不安な日々が続いていると思いますが、一日も早い復興と皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

また、大変困難な状況の中、救援活動に携わっている方々のご努力に深甚より感謝申し上げます。

平成23年4月

日本山岳協会山岳共済会事務センター
取扱代理店 瀬田工業株式会社

（尚、この広告料の一部は、義援募金とさせていただきます。）

日時 平成22年3月3日(木)
17:30～21:00
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 田中会長、内藤副会長、
粟飯原副会長、神崎副会長、本
木副会長、西内、佐藤、堀井、
尾形、寺内、相良、谷口、永井、
長谷川各常務理事
委任 仙石、北山、青木、高山
常務理事(18名中14名出席)

1. 専門委員会動静

2月常務理事会以降
(2月4日～3月3日)

[報告]

(1)指導委員会
2月7日(火) 出席者13名
ア 1月常任委員会議事録確認
イ 氷雪技術常任委員研修会議事
録確認(1/23-24、八ヶ岳)
ウ 関東ブロック、近畿ブロック
研修会報告
エ 1月常務理事会報告
オ 平成23年度事業計画及び予
算について
カ スポーツライミング上級指
導員養成講習会について(実施
報告書)
キ 義務研修実施報告の入力につ
いて(17県分の入力済み)
ク 平成23年度中高年安全登山
指導者講習会について
ケ 氷雪技術研修会について
・大山(2/11～12)講師4名、
研修参加者18名
・冬期クライミング指導要領
・八ヶ岳(3/19-21)
・富士山(3/19-21)
コ オフィシャルブックの改訂に

ついて
・スポーツライミングの免除項
目を追加
サ 上級指導員認定申請について
シ 遭対委員会との合同会議
(2/15)
ス 競技委員会との合同会議
(2/17)
セ 平成23年度指導委員総会
(6/11-12、東京・晴海)
(2)自然保護委員会
2月15日(火) 出席者16名
ア 国際山岳自然環境フォーラム
の報告
・1/14 国立オリンピック記
念青少年総合センター
参加者:70名
・『登山月報』3月号及びHPに掲載
イ 野生鳥獣目撃レポートについて
・HPへのアクセス
累計5,738件(2011年2月15現在)
・レポート 累計 341件(2009
年4月1日～2011年1月30日)
・自然保護信託ファンド申請計画
中(山岳団体自然環境連絡会)
ウ 山岳トレの取組みについて
・「山みんなの宝、全国大会」実
行委員会解散(1/19)
・予稿の増刷:JMAで100冊購入
エ トレラン・アンケートの実施検討
オ 山岳団体自然環境連絡会(2
/1)の報告について
カ 平成23年度事業計画について
・常任委員研修会:5月or6月
・自然保護委員総会:10/15～16
(3)競技委員会
2月17日(木) 出席者16名
ア 2月常務理事会報告
イ ボルダリング・ジャパンカッ

プの進捗状況について
2/26～27 長崎県茂木
ウ 第7回山岳スキー競技日本選
手権大会について
エ RockClimbing OSAKA JAPAN
2011 namBa HIPS CUPについて
オ トレイルラン小委員会の進捗
状況について
カ ブロック研修会報告
・四国ブロック(1/22～23)
松田、安形
・関東ブロック(1/29～30)
高山、山本
・東海ブロック(2/5～6)
寺内、山本
・近畿ブロック(2/5～6)
西原、安形
・宮城・特別(2/11～12)
寺内、山本
キ 国体後催催の準備状況について
・山口県:山口県選手の処分につ
いて
・岐阜県:第1回基準会議(4/
21～22)、リハーサル大会(6
/8～10)
ク ブロック研修会講師の選出に
ついて
ケ 平成23年度競技委員総会の
役割分担について
コ 平成23年度からの審判員、
ルートセッター、競技運営員の
登録・更新業務について
サ 国体後催催のリード壁の施設
基準の変更について
シ その他
・山口の山岳(成女)選手への厳
重注意について
(4)遭難対策委員会
2月23日(水) 出席者7名

寄贈図書

●寄贈本●

『山行記』山と溪谷社
『生老病死のエコロジー—チベット・
ヒマラヤに生きる—』(株)昭和堂

●雑誌●

『山と溪谷』4月号 山と溪谷社

●会報●

中華民国山岳協会
横浜山岳会
(株)日本スポーツ振興センター
兵庫県山岳連盟
(株)国立公園協会
全日本ボウリング協会

(株)日本ゲートボール連合
Corean Alpine Club
FECC
日本武術太極拳連盟
岩手県山岳協会
新潟県山岳協会
長野県山岳協会
日本勤労者山岳連盟
愛知県山岳連盟
大聯山岳連盟

岡山県山岳連盟
日本山岳会
東京野歩路会
大阪府立体育館
日本山岳会自然保護委員会
六つ星山の会
福岡山の会
日本山岳写真協会

JMA

守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

■平成21年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成22年6月8日)

発生件数 **1,676** 件

遭難者数 **2,085** 人

死者・行方不明者 **317** 人



詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ア 積雪期レスキュー講習会の反省
イ 積雪期レスキュー講習会のアンケート結果

ウ 指導委員会との協議について
エ 英国調査訪問について

オ 平成23年度事業の推進について
(5)広報委員会

2月28日(月) 出席者7名

ア 『登山月報』3月号(504号)の編集内容について

- ・アジア・ピオレ・ドール選考委報告(谷口けい)
- ・海外登山クロニクル・トークショーを終えて(神崎忠男)
- ・ジュニア登山教室情報交換会
- ・レスキュー講習会(積雪期)
- ・「山の切手」発行について
- ・マウンテン・ワールド

イ ホームページ

- ・公式HPの改善効果について月報に載せる
- ・『登山月報』のPDF公開について

(6)普及委員会

2月28日(月) 出席者7名

ア 平成22年度ジュニア・普及情報交換会(2/19)報告

イ 平成23年度中高年安全登山指導者講習会連絡会議(1/31)報告

ウ 第50回全日本登山体育大会(福岡)の開催について

エ 平成23年度ジュニア登山教室in立山(PART II)について

オ 平成23年度中高年安全登山指導者講習会の講習内容について

カ 第2回全国高校生クライミング選手権大会の開催について

キ その他

- ・個人会員について活動内容等の全国集計について
- ・日本山岳遺産基金アンケートについて

2. その他の重要事項

(2月4日～3月2日)

〔報告〕

(1)山森欣一氏秩父宮記念山岳賞受賞祝賀会 2月5日(土)
於：プラザエフ 尾形常務理事

(2)関東地区連絡協議会

2月5日(土)～6日(日)

於：群馬県
田中会長、内藤、本木副会長、

佐藤常務理事

(3)東海ブロック研修会

2月5日(土)～6日(日)

於：三重県 寺内常務理事他

(4)近畿ブロック研修会

2月5日(土)～6日(日)

於：兵庫・明石市

永井常務理事他

(5)日本山岳写真協会新年会

2月6日(日)

於：ルートイン東京・東陽町

田中会長

(6)第7回山岳スキー競技日本選手権大会実行委員会 2月7日(月)

於：柵池高原 笹生常任委員

(7)無名山塾新春懇談会 2月8日(火)

於：ホテルベルクラシック東京

田中会長、本木副会長、尾形常務理事

(8)平成22年度山岳遭難対策協議会幹事会 2月9日(水)

於：文部科学省 中川事務局員

(9)競技特別研修会

2月11日(木)～12日(土)

於：宮城県

山本、松田常任委員

(10)氷雪技術研修会

2月11日(土)～12日(日)

於：大山 永井常務理事他

(11)少年少女登山教室報告会

2月19日(土)

於：国立オリンピック記念青少年総合センター

本木副会長、西内、仙石、谷口常務理事

(12)北信越ブロック研修会

2月19日(土)～20日(日)

於：長野県大町市

安形、森常任委員

(13)平成22年度評議員会

2月20日(日)

於：岸記念体育会館

田中会長他常務理事13名、理事1名、監事2名、評議員40名

(14)「山の日」制定協議会

2月21日(月)

於：J A Cルーム

本木副会長、尾形常務理事

(15)中島龍・兵庫県山岳連盟会長(前日山協副会長)逝去。享年74歳

(16)財自然公園財団理事会

2月22日(火)

於：法曹会館 田中会長

【東日本大地震義援金協力者ご芳名】

(4月8日現在)

10万円：埼玉県山岳連盟、51,037円：白根山岳会(新潟)、5万円：岡山大学山岳会、田中文男、長崎大学学士山岳会、3万円：堀井昌子、明宏印刷、みつがしわ山の会、山崎孝司、大宮山岳会、2万円：柳原政一、1万円：福井正信、後藤利雄、高倉敦、安藤武典、飛田和夫、産賀弘聖、あゆむ山の会、尾形好雄・寛子、秋山妙子、西内博、西原斗司男、エコー山の会、愛知県山岳連盟、8,200円：鹿児島県山岳連盟、5千円：アルパインクラブとだ、戸田市山岳会、亀岡山の会、槻岳友会、2千円：平野新一

(総額：641,237円)

(17)故中島龍氏葬儀・告別式

2月23日(水)

於：クレリ芦屋ホール

尾形常務理事

(18)日体協・J O C 100周年記念実行委員会 2月23日(水)

於：岸記念体育会館 田中会長

(19)城隆嗣顧問の叙勲を祝う会

2月25日(金)

於：リーガロイヤルホテル大阪

田中会長、本木副会長

(20) I F S C 総会

2月25日(金)～26日(土)

於：イタリア・ローマ

小日向常任委員

(21)第6回ボルダリング・ジャパンカップ 2月26日(土)～27日(日)

於：長崎市

田中会長、北山、寺内常務理事

(22)栗山昭子嘱託事務局員退職

2月28日(月)

3. 議事

(1)平成22年度2月常務理事会議事録の承認について(承認)

(2)平成22年度評議員会議事録の承認について(承認)

(3)日本山岳協会山岳共済会内規の見直しについて(改廃の提案を承認)

(4)平成22年度第2回理事会議案について(承認)

(5)平成22年度臨時総会議案について(承認)

(6)平成22年度第2次補正予算について(提案通り承認)

(7)免税募金について(承認)

(8)平成23年度自然公園指導員自

- 然環境局長表彰及び指導員表彰候補者の推薦について(自然保護委員会に付託する事で承認)
- (9)平成24年度叙勲及び褒章候補者の推薦について(候補者の見送りを承認)
- (10)報告事項
 - ア 会計月次報告
 - イ 平成23年度中高年安全登山指導者講習会の開催概要について
 - ウ 国体競技参加資格にかかる第三者委員会報告について
 - エ 『登山月報』のPDF公開について
 - オ 事務局体制強化の報告(4月から常勤4名、パート2名)
 - カ ブラインド・クライミング選手権反省会報告
 - キ 遭難対策委員会からの報告
 - ク 東京スポーツタウン2011について
 - ケ 第2回全国高校生クライミング選手権について
 - コ 「山の切手」発行について

4. 役員等の派遣について

- (1)北海道ブロック研修会
3月5日(土)～6日(日)
於：深川市
寺内常務理事、山本常任委員
- (2)九州ブロック研修会
3月5日(土)～6日(日)
於：佐賀県
原、松田常任委員
- (3)中国地区山岳連盟(協会)連絡協議会
3月5日(土)～6日(日)
於：岡山市 粟飯原副会長
- (4)印西市表敬
3月8日(火)
於：印西市役所 田中会長

- (5)日体協総合企画委員会
3月9日(水)
於：岸記念体育会館
田中会長
- (6)日体協・JOC100周年記念実行委員会
3月11日(金)
於：岸記念体育会館 田中会長
- (7)財スポーツ安全協会評議員会・理事会
3月11日(金)
於：東海大学交友会館
田中会長
- (8)JOC総務委員会
3月15日(火)
於：岸記念体育会館2階理事・監事室 尾形常務理事
- (9)氷雪技術研修会
3月19日(土)～21日(日)
於：富士山～瀧本、堤、野村、鈴木常任委員
於：八ヶ岳～永井常務理事、瀧根常任委員
- (10)日体協評議員会
3月23日(水)
於：グランドプリンス新高輪
田中会長
- (11)競技委員総会
4月3日(日)
於：こどもの城(青山)
田中会長、高山、北山、寺内、永井常務理事
- (12)UIAA登山委員会
4月7日(木)～9日(土)
於：スイス・ベルン
青山副委員長
- (13)第7回山岳スキー競技日本選手権大会
4月9日(土)～10日(日)
於：杵池高原
本木副会長、寺内常務理事

5. 後援、協賛等の依頼について

- (1)映画『岳』試写会とトークショーの後援名義(承認)

- (2)第3回ハセツネ30K大会の共催の件(後援名義であれば承認)

6. 報告

- (1)自然保護指導員の承認
愛知 2名
- (2)指導員の認定承認
 - ①上級指導員
アルパイン：二村幸孝、中提俊太(岐阜2名)
スポーツクライミング：山森政之、傘木靖、清水豊、小坂秀己、河野誠一、廣川厚子、浅井和洋(福井会場7名) 升田貴大、羽鎌田裕子、広島裕士、館内淳、引地弘行、田中星司、阿部雅史、阿部茂雄(宮城会場8名)
 - ②指導員
アルパイン：中山一彦、水谷剛生、宮坂公久、松山信、藤巻功(長野5名) 久山立、久山千春、山本哲也(愛知3名)
- ※尚、年度内認定承認については、指導委員会に付託し、4月常務理事会で報告することで承認。
- ③主任検定員 なし

7. 通知、依頼、連絡、案内等別紙の通り

8. 連絡事項

- ①平成23年4月常務理事会
4月14日(木)17:30
(岸記念体育会館103会議室)
- ②平成22年度第2回理事会・臨時総会
3月13日(日)10:30
(岸記念体育会館101～103会議室)

HANDY GPS RECEIVER & LOGGER **ATLAS® ASG-2** 販売価格 12,600円(税込)

GPSでアウトドアをもっと楽しく!

最大5箇所の目的地(経由地)が登録可能。
事前に休憩場所や寄り道先のポイント設定に活用!

- 位置情報と移動情報を表示・記録
(リアルな数値情報とログ機能搭載)

株式会社 ユピテル 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33
お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで TEL 03-3769-1190
<https://atlas.yupiteru.co.jp>

※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに入会(無料)し、直接購入もできます。



編集後記

桜前線の北上と共に、被災地の学校再開の報が届いています。復興に向かって歩み始めた方たちへの応援の気持ちを込め、新緑に萌える東北の山を訪れたいものです。

(広報 本木 総子記)

登山月報 第505号

定価 100円(送料別)
予約年間 1,200円送料共
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月一回15日発行)

発行日 平成23年4月15日
発行者 東京都渋谷区神南1の1
岸記念体育会館内
社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
FAX 03-3481-2395